自尊意識を高揚させる ―実態に基づく課題設定

（赴任した学校の実態を踏まえた教育活動）

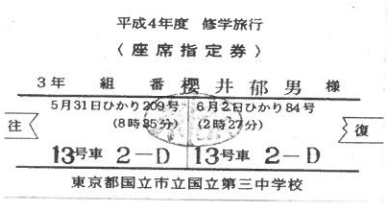
櫻井　郁男
（八王子市教育センター）

はじめに

1970年代後半，校内暴力の時代に教職に就いた私は，全校生徒1100余名の大規模校で新規採用から7年間を過ごした。そこでは，3学年副担任・1・2・3学年担任の後，3副・3担・3副（進路指導主任）と担当した。

初任校の7年間では「校内暴力」は報道で知るだけであり，異動に際して「自宅に近ければ，通勤に割くエネルギーを教育活動（本当はサッカーをしたい）に当てることができます。」と希望した。すると，徒歩で通勤が可能な中規模校への異動が決まった。

今回の発表は，この学校での教育活動事例である。私は9年間，生活指導（生徒指導）部に属した（5年間は主任）が，この教育実践は，集団生活を活性化させる「特別活動」の事例として捉えて下されば，何かの折に活用していただけるものと存じます。


平成4年度　修学旅行
（座席指定券）
3年　組　番　櫻井郁男　様
往　5月31日ひかり209号（8時35分）　6月2日ひかり84号（2時27分）　復
13号車　2－D　13号車　2－D
東京都国立市立国立第三中学校

1　赴任校の実態

この学校（本校）は，「文教地区」から外れた川沿いにあり，段丘上の旧街道沿いには旧家が並び，段丘下の田畑が切り売りされた下水道もない土地に，借家が点在する地域であった。市が指定した文教地区と，本校学区域との境には都営住宅があり，分譲部分は文教地区に属し，賃貸部分の学区域は本校であった。今思えば，保護者の教育力は高いとは言えず，日々の生活に追われる方々が多かった。

2　着任当初

3月末，異動のあいさつ時に「期待していますよ」と教頭先生から告げられた。校長先生は「体調を崩し，お休みをしている」とのこと。特に感じることもなく，理科室への案内を求めたところ，1階廊下はベニヤ板を打ち付けた窓，理科室は釘付けされており，かろうじて出入りできる準備室から案内された室内は，埃と塵だらけで雑然としていた。

4月1日は辞令をいただくのみで，私が本校職員として着任したのは「前日出勤（始業式前日）」であった。私が属す新二学年の教員は，その夜8時まで新入生の階のペンキ塗りをした。「今日着任したばかりの私が，なぜ昨年度のつけを払うの」と思いつつ刷毛を動かしてしていると，「本校では左官・表具・木工・電気工事等，修繕技術は上手になりますよ。」と，学年主任から励まし？があっ

た。新二年生の教員9名中，昨年度からの持ち上がり担任は2名であった。

3 俺たちのときもそうだった(克服すべき課題)

始業式は校庭で行なわれた。職員室から見る校庭には 20 台ほどの自転車が走り回り，10 名ほどは，くわえタバコでの運転であった。「あの子たち，何年生ですか」「二年生です」「行きましょう」……「なぜ私が最初に気づいたのだろうか」と思いつつ，持ち上がりの学年主任と数名の教員で校庭に出た。三年生は朝礼台前，二年生は体育館前に整列し，二・三年が合体し始業式が始まった。開始予定時刻は50分も遅れていた。

「校長先生は着任直後でお忙しくお疲れになって……」と生徒への説明があり，教頭先生が代理をした始業式のお話が始まると，4階のベランダからは「ふざけるな，汚いぞ」と，学級編成を不満の理由として，それらしい三年生がプランターを校庭へ投げ下ろす示威行為に及んだ。

始業式後，二学年の階は消火栓からの放水で水浸しとなっており，投げつけられたコーラの空き瓶と割れた蛍光管が床に散乱していた。

それなりに学級開きを終え職員室に戻ると，先ほどの三年生が「○○参上」と職員室出入り口の引き戸にマジックで落書きをしているところだった。

「なぜ落書きするの？それっていいの？」「俺の学校だから書いているんだ。文句あるか」と，ふてぶてしく答える。私が声を荒らげても生徒が取り巻くだけで誰も来ない……「参上君」は引き下がらない私を挑発しつつ自分の教室に入り，椅子を私に蹴りつけてきた。さらに，1 階昇降口まで問い詰めつつ追うと，同年代の教員がやってきた。「担任ですか」「はい」「お任せしていいですか」「はい」そして私は，憮然として職員室に戻り「どうなっているんだ，この学校は」「あれだけ大きな声を出したのに，なぜ誰も来てくれないのですか」「僕は今日，初めて生徒に会ったばかりですよ」と，怒鳴った。

静まり返った職員室で中堅女教師（K）が，「教頭先生，職員会議を開いてください。」と要望し，放課後の職員会議では「櫻井さんの言う通りです（K ）」と発言なさり，「昨年度末に申し合わせた通り，何かあったらすぐに席を立ちましょう」との「再度の申し合わせ」となった。

このように思いがけない経緯で，私はプランター投下と落書きをした「参上君」と一緒に，年度当初のデビューすることになってしまった。

4 月の学年便り，私は着任あいさつを……新しい学校に慣れましたか……タバコ，爆竹，土足，アメガム，抜け出し，徘徊，非常ベル……「とても慣れることはできません」「ボクはいやだ」と結んだ。

ゴールデンウィーク後まで，私にとって初めての，たくさんの出来事が日々続き，その都度，粘り強く指導を続ける中で，教員不信の生徒たち，刹那的に日々を送る生徒，放任の保護者，無力感に陥りつつある教師の様子がわかってきた。生徒指導に追われる日々を過ごしていたが，「参上君」やその取り巻きの生徒たちと「親しく会見」を続ける中で，「創立当時から，子供たちは本校に進学したがらないこと」「創立数年後から学校が荒れだしたこと」「卒業生→上級

生→下級生への威圧」「上級生の威を借りた同級生への威圧」がわかってきた。そして，彼等から「俺達は強いんだ」「俺たちのときもそうだった」との発言があり，本校を活力ある学校にするために克服すべき「明確な課題」が生まれた。

4　悪貨が良貨を駆逐する(教え子に失礼かな)学校から,「誇れる○中へ」

「本校には進学したくない」この言葉を裏付けるように，今から 30 年ほど前でありながら，関係小学校での私立中学受験者は 70%以上に達していた。本校の実態を知り，経済的に可能であれば「私立中学進学」を考える保護者の気持ちも理解できる。しかし，私は本校教員である。子供たちに生き生きと学校生活を送らせことが使命であり,自らの勤労意欲の高揚にもつながる。そこで，生徒会のスローガンである「きれいな学校あなたしだい」と，具体的目標である「体育祭の復活」に向けて，できることから始めることにした。

暴力行為が続き競技種目のみになっていた陸上競技大会は，3 年生の入学以前より続いており「体育祭の復活」は，生徒の心をまとめる「アドバルーン」と判断したからである。

ふたつの学年が整列するのに 50 分もかかる学校を安定させ，全校生徒の心を結集し，多くの種目を楽しむためには，5 年の歳月がかかった。そして体育祭が復活したとき，新たに生徒の心を結集させる「アドバルーン」も必要であった。

学校が信頼されるためには，教職員が本気を見せ，生徒と「とことん」つきあうことにより，生徒・保護者・学校が良好な人間関係を築き，地域から支持を得ることにつきる。

そこで，まず「夏の移動教室」から始まった 2 年間を紹介する。

5　確かな手ごたえの2年間

①　蓼科山ハイキングを改め，北八ヶ岳全山縦走へ(自尊意識の高揚)

4 月当初の異常な日々が一段落し，学年全体が落ち着きつつある頃，移動教室の計画を練る学年会の場で保護者会の報告があった。

中堅女教師（K）の学級懇談報告……「子どもがこう言っています」と母親から。

去年の今頃……皆が変わっていく……学校に行くのがつらかった。

今年になって……あたりまえのことが，あたりまえに出来る。

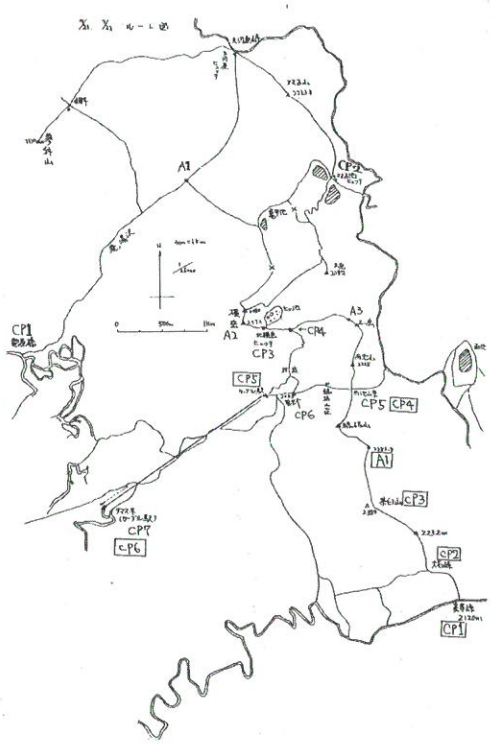
この報告を聞いた私は「子供たちの心に火をつけるのは今」と判断し，仰々しい準備と，あっけない蓼科山ハイキングであった移動教室を「意識的」に強く否定し,「集団の自尊意識（達成感・成就感）を高揚させたい」と，以下のプロットに沿って「北八ヶ岳全山縦走」を提案した。

・「One for All　All for One」

・「おれたちがやるんだ，やらせてよ先生」と言わせたい。

・「おれたち　わたしたちは　すごいんだ」

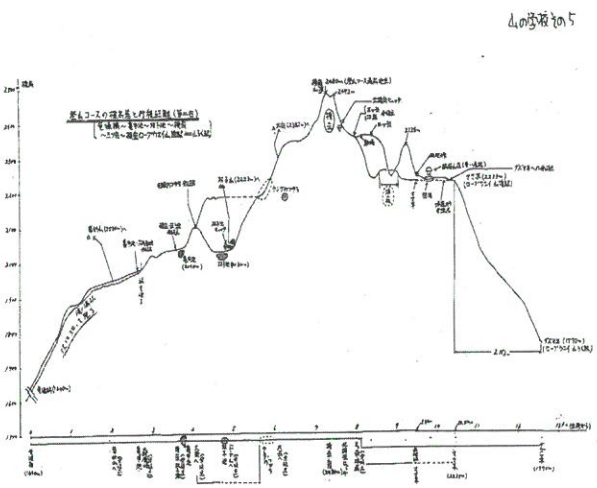
この提案をするにあたって，昨年は「参上君」の影響を強く受けていた２名の生徒が，私との「それなりの」人間関係を踏まえ「同志」としてデビューした。６月 17 日の学年集会は実行委員会の自主運営となり，司会進行は「同志」２名が担当した。事前指導では「信じる，裏切るな」と宣言し「良好な人間関係をつくること」を目的に，出発前の荷物検査を廃止した。(昨年度までは保護者立会いで荷物検査をしていた。しかしバスまでの移動途中に下級生からは多くの「差し入れ」があったそうだ)

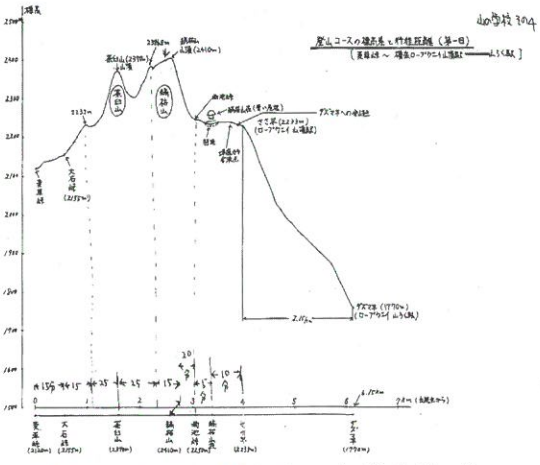


初日の山行を終え，ホテルに戻ると，各部屋に用意した冷たい缶ジュースが 22 本不足しており，夜９時までかかってすべてを回収した。(もちろん空き缶もあった)

さらに，翌日の打ち合わせをする頃には雨が振り出し，天候の判断が議論となった。「これが雨でなくて，どんな天気のことを雨というんだ」との発言に対し「あなたに任せる（教頭)」の発言は，今思えば「私に賭けた」決断であったのだろう。

出発の頃には雨もやみ，完全縦走を果たした生徒たちは涙を流しつつバスに戻った。そして反省会は教師(K)が泣いた夜となった。(彼女は崩れていく本校を８年間支えていた)





左図・上図・下図とも　斉藤幸男 作

<u>やらせれば出来る子どもたち(教員)，私たちはすごいんだ・慕われる先輩に</u>

なろう(生徒)これこそ自尊意識の萌芽ととらえ，その場で私は「鎌倉」遠足の提案をした。

② 年間計画外の鎌倉遠足

最寄り駅から始まる鎌倉での班別自由行動は，入学後の飯盒炊爨で，いい加減な行動(写真屋さんがあきれ，怒り，帰ってしまったとか) に終始した生徒たちに自浄作用を促す課題であった。「いくらでも自由が利き，教員の目の届かない場で，どれだけ自律的な行動ができるか……」年間行事計画に位置付けられていない活動を許可した管理職からの，学年への期待に感謝しつつ企画した。活動内容は発表時のプロットにとどめる。

・新幹線は待ってくれない(修学旅行を見据えて)

・東京駅遅刻 14 名　・待機教員 2 名　・お昼までに全員合流

日々起きる問題行動に対処しつつ，「普通の生徒」の健全な成長に勇気付けられ，第二学年は，生徒たちも教師も秋を迎え学校に中心となっていった。

③ 「新たなる一歩を私たちの手で」

このスローガンを掲げ，二年生は生徒会の中心となり落ち着きを増していった。「歯車がプラスの方向に動き出した」との表現をされた第二学年は，授業も順調に進み，余剰時数で学年レクリエーション（男子ラクビー，女子バレーボール）もできるようになった。

生活指導部の私には「先輩にやられたこと，させられたこと……すべて言うけど先輩を指導しないてほしい(何をされるかわからない)。ボクたちは絶対に下級生にはやらないし，三年生になったら二年生にもさせない」との誓いが寄せられた。(完璧な信頼関係の構築)

あっという間の 1 年間を終えた私が，学年便りに寄せた言葉は，「私は○○中学校が好きです」であった。

④ 6学級，引率6名の修学旅行

修学旅行は卒業までのエネルギーを蓄え，入試へのモチベーションの維持に欠かせない。ここも紙面の関係で，発表時のプロットにとどめる。

・君は 6 月 26 日，どう過ごす　・2 日目，全日，班別自由行動」

・異装では連れて行かない　・きちんとさせて連れて行く

・11 名の引率者のはずが，京都駅では 6 名（大人の本気と，とことん）

*東京駅で待機した教員が生徒を引率し京都の宿に着いたのは夕食前であった。

*本気を理解した生徒は，服装を改め東京駅で待った教員と夕食までに宿に到着した。

どちらの文章がそのときの様子を表現しているか，ご判断ください。

しかし，軌道修正できず，私たちに心を開かなかった生徒も「1 名」いた。

遅くまで学校にとどめた彼に，買ってきた軽食を渡したところ，そのバーガーは床にたたきつけられた。彼とのことを述べるならば，生活指導をテーマに再度発表の機会をいただきたい。

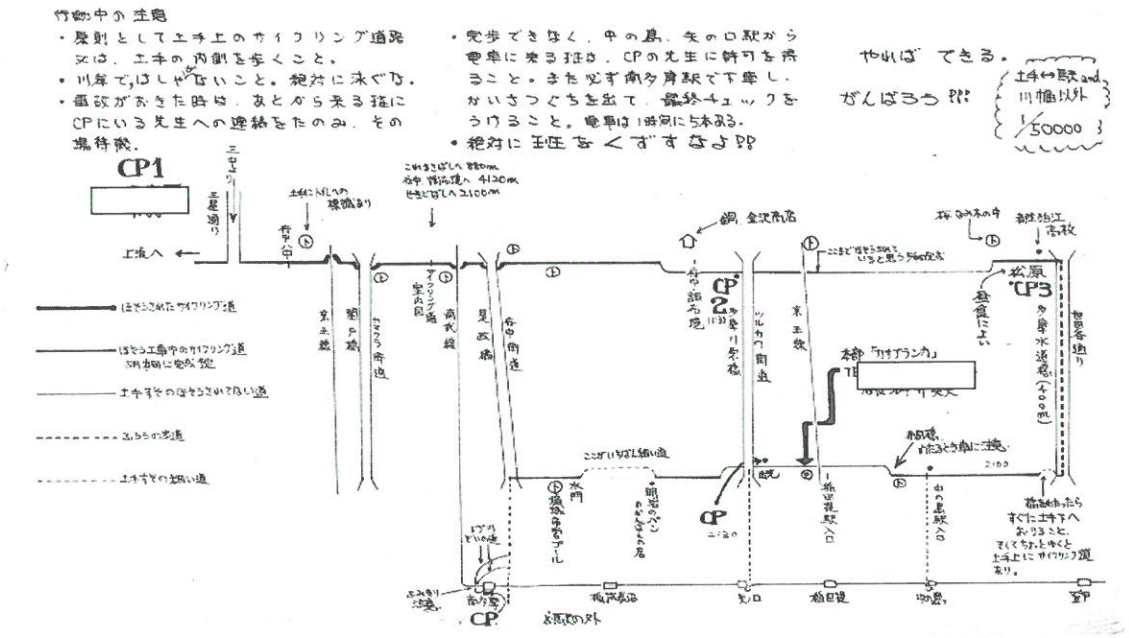
6「寂しい子を作るな」「体育祭への3年間」

前述の生徒を「寂しい子」ととらえ，体育祭復活への３年間がスタートした。充実した２年間を共に過ごした教員のモチベーションは高く，かつて「持ち上がりの先生は？」といわれた学年教員の士気は高く，保護者からの信頼も篤かった。私たちは満を持して新一年生を迎えた。この３年間を紹介する。

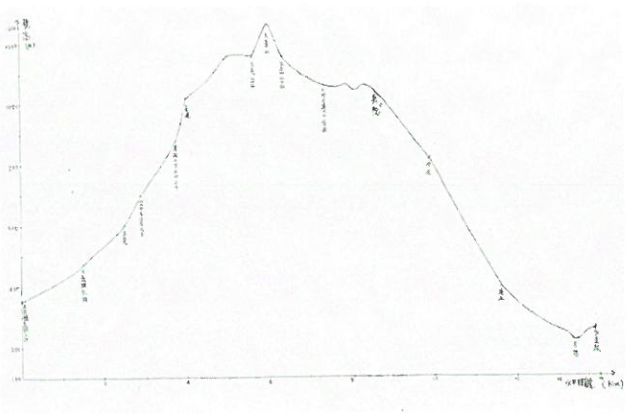
① 「春」……多摩川 26 km　おしゃべり遠足

従来は飯盒炊爨であった遠足を変更し，ねらいを「入学直後の学年作りのため」と「達成感」にしぼった。慎重論を説き伏せ，３回の実地踏査を行い，エスケープルートを確保し教員配置を工夫して連休直前に実施した。

多摩川 26ｋｍ　おしゃべり遠足　教員配置



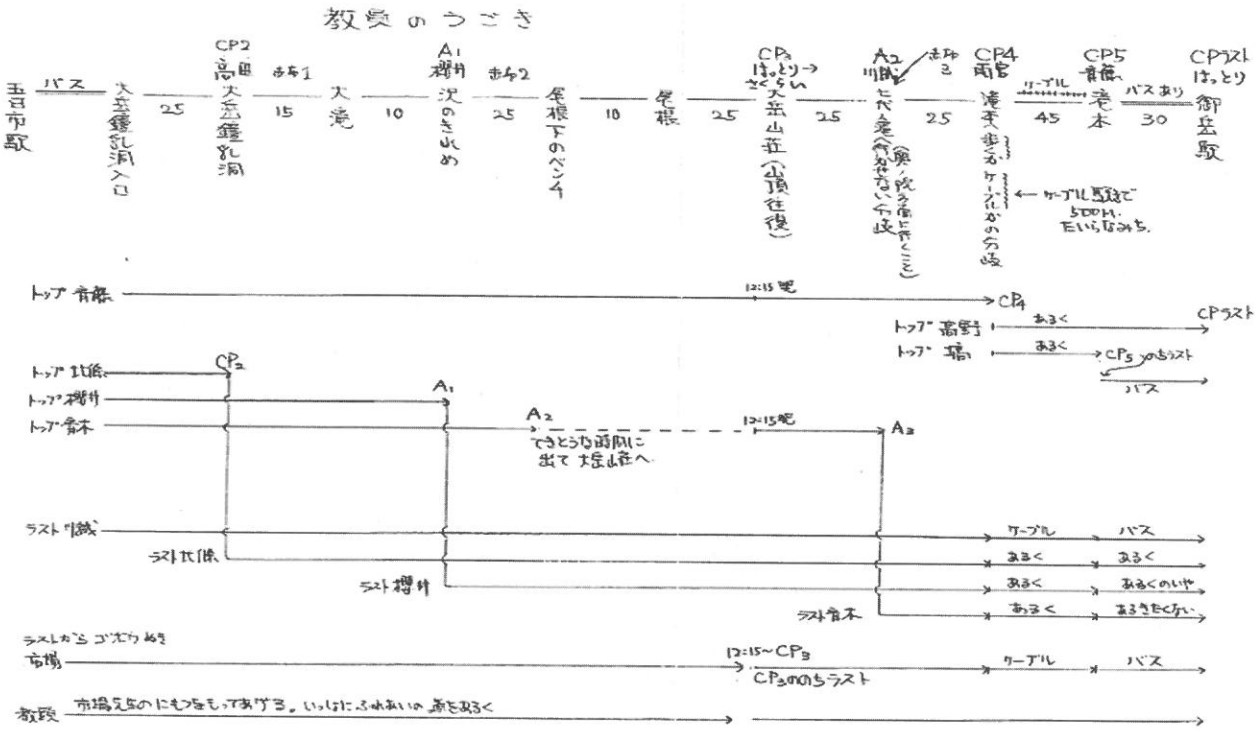
② 「秋」……大岳山から御岳山縦走（上養沢－大岳鍾乳洞－大滝－馬頭刈尾根－大岳山－奥の院－御岳山－滝本－御嶽駅）



17ｋｍの登山コース（高低図）

この頃には，学年の教員からの積極的な支援も得られた。

（教員の反省会は盛り上がって３次会，６時間も）



大岳山―御岳山　縦走　教員配置

③　2度目の第二学年

着任時の二年生と異なり，落ち着いた学年，そして学校全体も穏やかになった4年目は「体育祭復活」を生徒会および学年の「達成目標」とし，上下の悪しき流れで途切れた体育祭を復活させる手立てを考えさせた。

それは「あらゆる活動で先輩を超える」ことであった。(この年の陸上競技大会は，来年度の「体育祭」を予感させる種目をちりばめた。しかしこの時期の学年便りには

タバコを投げ捨てる生徒がいる　みんなの願いを無視するように
タバコを拾い集める生徒がいる　みんなの希望を集めるように
5月17日　79本　5月18日　132本

とあり，いまだに残る各学年数名の「寂しい子」への指導が課題でもあった。

ねらい通り，北八ヶ岳全山縦走を成功させ，秋の鎌倉行では，前日指導で「鎌倉」を斉唱し雰囲気を盛り上げた。(七里ガ浜の磯伝い……剣投ぜし古戦場)

3年前の「失敗」も事前に伝え，「修学旅行への積み重ね」と位置づけた指導に生徒は答え，東京駅には5通りのルートで集合した。秋の「鎌倉」を終えれば，生徒会の執行部は「私たち」の学年である。秋の生徒総会，学年目標は「澄んだ水を下流へ」であった。年度末には「来年の」自分たちのために，盛大な送別会(送る劇)を企画し「人と人と（ハンドラの箱)」を自主台本で上演した。春休みには一般教室内部のペンキ塗り（きれいな学校あなたし

だい）を全学年で実施し，「体育祭復活への確信」が生まれた。

④　そして最上級生

再度「One for All　All for One」の学年目標を掲げ，修学旅行から戻った生徒たちは「まかせられる」ということは「とても大変なこと」との総括のもと，生徒総会で「体育祭復活決議」を行い，学校長に申しいれた。

重ねての末である。

現在、生徒会では〝ノーチャイム・デー〟の運動に取組みつつある。学校生活や授業を主体的にとらえ、自らの手で明るくけじめある学校生活を築こうとの願いからである。失敗は勿論あろうが、あたたかく見守りたい。

体育祭復活決議（東京都教育委員会，教育時報より）

体育大会復活決議から実施までの様子は，発表時のプロットで紹介する。

・すばらしい生徒総会（3時間）　・よかった生徒総会，体育大会の復活

・アドバルーン（ヘリウム風船），聖火，仮装行列，部活対抗リレー，棒倒し，棒引き，騎馬戦，そして教職員学年対抗リレー

⑤ 最高学年の締めくくり

入学以来，多摩川　大岳－御岳　北八ヶ岳　鎌倉　修学旅行　送る劇をやり遂げ「先輩を超えて」体育祭の復活を果たした生徒たちは，3年間の締めくくりとして，熱いメッセージをこめ「残す劇」を下級生に送った。これは学校間抗争を舞台とした純愛物語である。

当時は近隣の市を巻き込み学校間の抗争が多発し，「参上君」は「普通の生徒が塾で他校生に脅された」と聞いて，その学校の職員室まで一人で乗り込む，という時代であった。

・送別会「残す劇」
・原作シェークスピア
・ロミオとジュリエット？
・銀星会と八田組

学年を支えた子どもたちと

7 着任して5年が経って

着任して5年，苦楽をともにした教員仲間も異動時期を逆算する頃となった。今後の教育活動が，これまでのコピーであってはならない。生徒の向上心，保護者からの信頼を受け止め，教員も自らの成就感を求めて，これからの3年間について構想を語り合った。そして実態を踏まえ，新たな課題意識に基づき，新入生に対する要求を「修学旅行の3日間完全班別自由行動」とした。

上級生から語り継がれた本校の歩みと思いを引き継ぎ，生徒会は「今こそ築こう誇れる○中」をスローガンに「自ら学ぶ」「ノーチャイムデー（ウィーク）」を目標とした。

ところが，このような雰囲気で入学してきた子供たちに，北八ヶ岳全山縦走の試練を与えることはできなかった。

背景として教育課程の見直しがあり，学校週五日制の導入による教育活動の精査があつた。そこで与えられた授業時数(日数)を踏まえ，多摩川遠足と大岳—御岳を克服させた後，第二学年では，学区域内オリエンテーリング・鎌倉・スキー教室を実施した。

オリエンテーリングは，新たなスタッフの実践に基づき企画され，子どもたちは地域理解を深め，かつて後ろ指を指されていた本校は，近隣のご家庭の協力をいただけるまでになっていた。

そして，スキー教室は，「イワッパラダイス」のスローガンのもと「岩原まで走っていこう，そして滑って，走って帰ろう」と事前トレーニングをさせた。また，修学旅行を4ヵ月後に控え「インストラクターにはお任せしない」「ナイターあり」「早朝スキーあり」「いつでもお風呂」「放送なし」の方針を実現させた。

8 8年間の総仕上げ(修学旅行の3日間班別自由行動)

この修学旅行を目指して，3年間に及ぶさまざまな教育活動を積み重ね，課題を克服してきた生徒・教員それぞれの感慨は深かった。

あなたの室内生活班は？　自由というのは大変なことなのだ

部屋	1日目の夕食時間	1日目の夕食に	2日目の朝食時間	2日目の朝食に	2日目の夕食時間	2日目の夕食に	3日目の朝食時間	3日目の朝食に	最の場所

1日目の夕食に：
A　　B

2日目の朝食に：
A　　B

2日目の夕食に：
A　　B

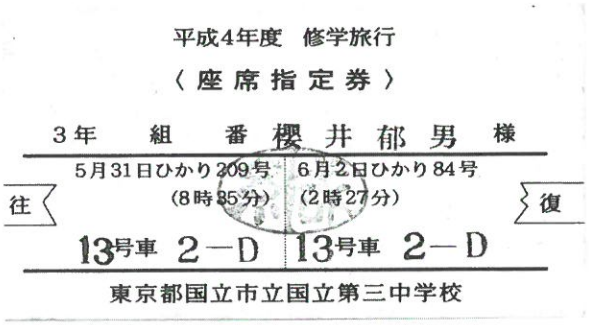
3日目の朝食に：
A　　B

3日目の最の場所・時刻を記入せよ

あなたの行動班は？　自由というのは大変なことなのだ

	CP2 集所は？	1日目ハトヤ着時刻は？	1日目の夜間外出はどこへ？	2日目の早朝散歩はどこへ？	2日目ハトヤ着時刻は？	3日目の早朝散歩はどこへ？	3日目 荷物はどこに置く？	3日目 お昼はどこで？
1-1	ハトヤ	[illegible]	12 ツリー	[illegible]	[illegible]		ハトヤ	[illegible]
2	ハトヤ	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	ハトヤ	[illegible]
3	京都駅	5:20	京都タワー	〃	6:40		京都駅	京都駅の弁当屋
4	ハトヤ	5:37	京都駅時計フロー	〃	6:13		ハトヤ	金閣寺の近く
5	ハトヤ	5:37	京都タワー	〃	5:30		ハトヤ	[illegible]
6	ハトヤ	5:20	五条大橋	〃	6:10		京都駅	円山公園内
2-1	ハトヤ	5:00	〃	〃	5:55		ハトヤ	外で遊れたら新幹線
2	ハトヤ	6:00	京都タワー	〃	5:25		浜名	三条駅
3	京都駅	5:50	〃	〃	5:45		ハトヤ	京都駅周辺
4	ハトヤ	5:20	〃	〃	6:00		ハトヤ	その辺にあった店
5	ハトヤ	5:18	〃	〃	5:10		ハトヤ	京都駅
6	ハトヤ	6:30	京都タワー	〃	6:10		京都駅	京都駅
3-1	ハトヤ	[illegible]	京都タワー	土手	7:00	土手	京都駅	駅の近くのマクドナ
2	ハトヤ	5:40	〃	〃	5:40	5:15	西本願中	ハトヤ	三条駅近く
3	京都駅	5:55	京都駅時計から5:47西本願寺		5:30		ハトヤ	駅近辺または新幹線
4	ハトヤ	5:05	ハトヤ周辺	〃	5:40		京都駅	京都駅周辺
5	ハトヤ	6:15	京都タワー	〃	6:05		京都駅	駅弁または食堂
6	京都駅		京都タワー	〃	8:20		ハトヤ	京都駅前
4-1	ハトヤ	5:30	〃	〃	6:45		ハトヤ	祇園駅
2	ハトヤ	5:15	京都タワー	〃	6:40		京都駅	京都駅
3	ハトヤ	[illegible]	[illegible]	[illegible]	1:42	4	ハトヤ	[illegible]
4	ハトヤ	6:00	京都タワー	〃	6:30		京都駅	京都駅周辺
5	京都駅	6:00	京都タワー	〃	7:00		ハトヤ	新幹線
6	京都駅	5:35	京都タワー	〃	6:10		京都駅	京都駅または新幹線
5-1	ハトヤ	5:10	〃	〃	4:10		京都駅	京都
2	ハトヤ	4:50	京都タワー 金閣寺	〃	5:20		京都駅	京都駅のどこ
3	ハトヤ	5:10	[illegible] 金閣寺周辺	特別はハトヤ周辺	5:40	4 ハトヤ周辺	ハトヤ	京都駅周辺
4	ハトヤ	5:15	[illegible] 竹林周辺	〃	6:13		ハトヤ	祇園
5	ハトヤ	5:35	京都タワー	〃	5:15		ハトヤ	京都駅周辺
6	ハトヤ	6:40	[illegible] 金閣寺周辺	〃	5:40		ハトヤ	ハトヤ周辺

・初日は新幹線の座席に集合


平成4年度　修学旅行
〈座席指定券〉
3年　組　番　櫻井郁男　様
往　5月31日ひかり209号（8時35分）　6月2日ひかり84号（2時27分）　復
13号車　2－D　13号車　2－D
東京都国立市立国立第三中学校

東京駅での全体集合は時間の無駄（本校専用座席指定券）

・ただ一度の全体集合は３日目の八条口
・自由って大変なことなんだ……　すべてを自分で決めなくてはならない
・もちろん３日間，館内放送は一切なし

9　結びに

「以前うまくいったから」と，前回を踏襲した教育活動を実施することは，教員とって楽ではあるが，教育の質の向上は望めない。私たちは時々の学年(学校)の実態に合わせ，成就感を味わわせる教育活動を行い，生徒の自尊意識を高めてきた。

社会が加速度的に変容し，生徒の実態，保護者の意識，地域の様子も変わり続ける。定期異動は公立学校ではつきものであるが，この異動制度は成功体験に満足し，ともすると課題意識が薄れがちになる教員にとって，適切な施策かもしれない。

本校にとって体育祭があたり前の行事になったとき，新たな課題が生じるであろう。そして，それを克服する教育活動は，今も行なわれていると信じる。

発表当日にいただいた質問について

「中学校なら３年間を見据えて指導していくこととなるが，小学校だと６年間あるが，一・二年，三・四年，五・六年と指導分担が分かれてしまっている。やはり，６年後を見据えて指導すべきなのか？」とのご質問を小学校の先生からいただきました。

このご質問に対し「６年間を任せてくれる校長がいれば一番いい」と申し上げました。

このお答えは，日々汗を流し，時に泥んこになって格闘している教員の立場での発言です。

校長の立場では，すばらしい実践をなさる先生がいても，６つの学年を編成する際には，「各学年とも６年間で同質の活動ができるか」が判断材料となります。小学校で全校児童に影響力を持ち，学校全体を動かせる教員は各校に何名ほどいらっしゃるのでしょうか……。教員だけではなく，働く者には，意欲や能力とは別の制約も多々あります。いきおい，平均化人事となる場合がある

でしょう。もちろん，学校の危機に際し「この学年から」という思いの人事も「あり」でしょう。生涯一教員として「自分の子ども」と，とことんつき合うことは尊いことです。また，学級だけでなく，学年，全校を動かしたいと念じた場合には，学年主任や校長になってください。

9年間，喜怒哀楽を共にした，斎藤幸男先生に衷心より感謝します。

1976年3月　農学部農芸化学科卒業

1979年度　聴講生(教職課程)

2013年度より，日本人学校補習授業校(北米)派遣(校長)予定